

令和3年9月29日
東京都立新宿高等学校
進路指導部

- 大学入学共通テスト
「受験案内」
- 模擬試験の結果と活用法
- 受験0期

Be an Autonomous learner!

英語科 鈴木 実千

「・・・バイカル湖は無理だな。芦ノ湖にしよう」

体が弱く、保育園を休みがちだった私にとって、本を読むことは何よりの楽しみでした。建築家だった父の本棚にあった世界地図帳も、お気に入りでした。カタカナの地名を、とても魅惑的に感じたことを覚えています。夏休みに行きたい所を尋ねられて、バイカル湖に行きたい、と返した私でした。

なぜバイカル湖は却下されたのか。5歳の私が地図上の縮尺の意味するところや、政治やビザのことなど知る由もありません。地図の謎を認識したこの時、知的好奇心の芽生えを私は初めて意識したのだと思います。

念願かなって旅人となり、49の国を旅してきました。旅は実に多くを与えてくれます。「ここではない景色」を心に持つことができれば、柔らかな気持ちで生きられます。「ここではない居場所」を作ることができれば、大きな気持ちで勝負をすることができます。そして、何より、多様な「翼」を持った人々と知り合うことができます。スポーツや音楽を通して、異国のコミュニティに溶け込む人々。身につけた知識や技術で、価値観の異なる社会で不可欠な存在となる人々。そうした出会いの中で、私は言語を翼に生きよう、と心に決めたのでした。

そして、旅は、未知の領域を学ぶ機会を、**autonomous learner** であり続ける機会を与えてくれます。私の場合、たとえば美術。初めてのヨーロッパ一人旅で、スペインのプラド美術館を訪れる私に、藝大の友人が手渡してくれたのが、“**Story of Art**” (E.H. Gombrich)でした。この分厚い美術の入門書は、歴史や背景を含めて美術を楽しむ入り口を、美術にさっぱり興味のなかった私に開いてくれました。旅をしていなければ、この本とも、美術とも出会わなかったかもしれません。

今これを読んでくれているあなたにも、何かをきっかけに物事を掘り下げて、自ら楽しんで学ぶ、**autonomous learner** であってほしい、と願います。同時に、ある種強制的に自分の得意でない分野も習得しなくてはならない、学校という学びの場も大切にしてください。学んだことは、思わぬところで役に立ったり、さっぱり役立つ気配がなかったりするでしょう。しかし知識や思考力は、多角的な物の見方、分析力と思考力の支えとなり、あなたの人生を確実により豊かにしてくれます。

私の場合は旅、そして言語でした。あなたは、何を通してあなたの「翼」をはぐくみますか。

○大学入学共通テスト『受験案内』配布

9月8日(水)、3年生全員に大学入学共通テストの説明を行い、『受験案内』(志願票)を配布しました。

今後の出願に向けての流れや志願票の書き方、その他諸注意がありました。その際に重々注意があったのは、「大学入学共通テストに関することはすべて、『受験案内』に書かれている」ということです。自己判断したり勘違いしたりすることのないよう、すみずみまで熟読して、間違いの無いよう、注意して準備してください。

〈今後の流れ〉

9月27日(月)「志願票」発送(学校一括)

10月下旬に「確認はがき」到着

12月中旬に「受験票」到着

○3年 出願資料請求について

大学入学共通テストの出願は学校が一括して行いますが、その後の国公立二次、および私大入試の出願は各自が個人個人で行います。募集要項や願書なども自分で取り寄せてください。

今後の受験に向けた準備は、すべて自分で行動し管理していく必要があります。注意しましょう。

○模擬試験の結果について

夏休み前に実施した進研模試(1、2年)、駿台マーク試験(3年)の結果が戻ってきました。模擬試験は、自分の勉強やその結果である実力をはかる機会となります。受けっぱなしにするのでは受験料が無駄になってしまいます。弱点発見、思考力・答案作成力を磨くためにも、復習にぜひ時間をかけてください。

1年生

は初めての本格的な模擬試験でした。平均偏差値は例年の並みですが、GTZでS層の生徒も沢山いた一方、少し成績が心配な生徒もいました。また、上位下位に関わらず、簡単な

問題が解けなかったり、基本的なことが疎かなことが分かりました。おごらずに、基本的な事柄をミス無く丁寧に解くようにしましょう。

2年生

は、全体として例年に遜色ない成績でした。あともう一步成績を伸ばすために、高い次元での復習が必要です。返された答案をよく見て、なぜ減点されているのかを考え、失点のない答案を作ることを目指しましょう! そのためには、自分の不得意分野や弱点をしっかりと認識して、克服することが大切です。11月模試はもうすぐです。しっかり準備をしてください。

また、志望校判定に一喜一憂しないようにしましょう。あくまでも現在の学力での判定です。皆さんには伸びしろがたくさんあります。難関大を目指す気持ちを大切にしてください。

3年生

「駿台マーク模試」を受験しました。この模試は全国の有名進学校が中心に参加する模試ですので志望校の合否判定では厳しい結果が出ているかもしれません。が、今は判定を気にする時ではありません。昨年もこの模試のE判定から合格に届いた先輩が何人もいます。

逆に、このテストで高得点をとれた人は自分の学習に自信を持って進んでいけばよいということです。気を抜かずに努力を続けましょう。

○模擬試験は3回解く

1回目(受験日)

2回目(受験後)

解答・解説を使って、自己採点を行います。「できたところ」「できなかったところ」、ミスした原因などを、確認・復習し、今までの学習を振り返りましょう。もちろん、勉強不足を感じたら、具体的に勉強方法を改善しましょう。

3回目（返却時）

特に記述問題について、自己採点とのズレを確認しましょう。改めて、できなかった問題を復習します。2回目に復習した箇所が、今回は解けているか、前回の復習やその後の学習が定着しているのか、確認しましょう。個人成績表をもとにして、多くの受験生が得点に結びつけている問題を確認するとともに、自分の弱点を分析しましょう。

○一刻も早く「受験生」に

みなさんは「受験0期」という言葉を知っていますか？ 2年生の冬を、受験学年である3年生にさきがけて、そう呼びます。皆さんの教室にもある『蛍雪時代』（旺文社）のデータによると、志望大学合格者の49%が、3年生になる前に受験勉強を始めています。そして、3年生の4月には69%の人が受験勉強を始めています。

注意してほしいのは、受験勉強と学校の授業は「別物ではない」ということです。授業の予習・復習という日ごろの勉強に、受験を意識した自主的な勉強を加えていきましょう。今自分が何をすべきなのか迷っている人は、各教科担当の先生に積極的に相談してください。受験情報の収集も含め、今できることはたくさんあります。

国公立大学入試対策会（予告）

3年生を対象に「国公立大学入試対策会」を実施します。（日程調整中です。）河合塾から講師の先生を招き“国公立大学合格に向けた最新入試情報と受験勉強のポイント”を中心とした講演会です。

受験勉強で時間が惜しい3年生ですが、この会の話は聞く価値が大ありです。国公立大をめざす人はもちろん、それ以外の人も是非参加してください。

◇今後の予定

- 避難訓練 国立大入試対策会(3年) 9/29(水)
- 都民の日(休業日) 10/1(金)
- 開校記念日 実力テスト(3年) 10/4(月)
- 分野別模擬授業(2年) 10/6(水)
- 2学期中間考査(3年) 10/18(月)
- 2学期中間考査 10/19(火)～22(金)
- 実力テスト(3年) 10/23(土)

○3年生の英語外部試験について

大学によっては、外部試験の資格・スコアが必要な場合があります。特に理系の人は、「すべり止め」の受験校をも含めて受験要項を確認し、資格・スコアが必要であれば英検やTEAP等を早めに受験しておきましょう。

先輩からの言葉

もうひとつの学びの場と共に

一般社団法人寺子屋いづみ 代表

33回生 岩岡 いづみ

私は小学5年生の時に地元世田谷にある子ども会に入り、年に数回子どもたち自身が企画、制作してチラシを作り学校で配布してもらうというイベントを高校まで続けました。子どもの数が多かった時代です。素人のそれも子どもの作った人形劇や紙芝居を一度に200人以上の子どもたちが見に来てくれました。ゲームもyoutubeもない時代です。楽しみのほとんどは手作りのものから生まれていました。

当時世田谷には30数個の子ども会がありました。時代は高度成長期。大人たちの中にそれまで地域にあった空き地が失われ、そこで育まれていたガキ大将を頭とする子どもの縦社会がなくなることへの危機感を持つ人たちがいて、子どもの社会に学校とは別の「育つ場」が必要という思いが子ども会を生み出しました。

私は、高校に入学し、部活動や生徒会活動をやりながら、地元での子ども会活動を続けていました。あまり勉強熱心ではない生徒でした。高校卒業後は漠然と子どもに関わる仕事がしたいと思っていましたが、ある事件が私の気持ちを決めました。母校の後輩たちが他校の生徒たちと体育館で乱闘事件を起こし、校長が警察に通報したことで地元の大人たちが立ち上がったのです。警察に子どもを引き渡す学校に子どもを任せておけないと。児童館の職員、子ども会から巣立った高校の教師などが勉強会を作り、事件を起こした子どもたちに勉強を教えました。私もボランティアでその子たちを教えることになり、そこで初めて子どもの育つ背後にある様々な問題を知りました。中学3年でもアルファベットも書けず、九九もできない彼ら。今で言われるところのネグレクトや生活に支援が必要とされる家庭の問題が大きな要因でした。彼らは「俺たちだって勉強したいんだ」「でも学校は俺たちを相手にしない」とぼつりぼつり語り始めました。私の中に「もうひとつの学びの場を始めよう」という思いが湧き上がり、「寺子屋」という塾を始めました。21歳の時のことです。

その頃から不登校のお子さんが少しずつ増えてきていました。区の教育相談室などからの紹介で発達に偏りのある様々な個性を持つお子さんたちも人塾してくるようになりました。補習、受験塾でありながら、障がいを抱えていたり、学校に行きたくないお子さんが一緒に学ぶ場として地域に知られるようになりました。来年で40年目を迎えます。

今、学校の1つのクラスの中にグレーゾーンと言われるお子さんも含めれば約3割の子どもに何らかの発達に偏りがあると言われていています。不登校のお子さんも保健室登校などを含めれば1クラスに1～2名はいます。教育委員会も学校も対応しようと対策していますが学校の組織は大きすぎ、子どもの個性の多様性に追いついていないのが現状です。いつの時代もその変化に一番敏感なのはしなやかな心を持つ子どもたちです。時代が変わる中で学校の中身は明治以来ほとんど変わっていません。昨年のコロナ禍での突然の休校措置で大きな組織としての学校が急激な変化の対応に非常に弱いことも露呈しました。学びのあり方も大きくカーブを切らなければますます生きづらい子どもが増えるでしょう。

寺子屋では数年前から「子ども食堂」も開催しています。商店街の飲食店とコラボして弁当を作ったり、支援を必要とする家庭に社会福祉協議会等と連携してボランティアさんをつなげたりという活動も根付いてきました。地域の学校とも不登校の生徒さんについて話し合いを持ったり、少しずつですがもうひとつの学びの場としての機能も充実してきました。

40年かけて積み上げてきたことにはそれなりの苦労もありましたが、ここまで来れた根っこは「これだけは譲れない」という思いでした。その思いは高校時代にかなり厚みを与えてもらえたと思っています。新宿高校の精神には「熱く、厚く生きていく」というものがあると思います。同級生や先輩、後輩と話しているとそのことを強く感じます。どうぞみなさんもその精神を十分に受け取り、ご自分の中の「譲れない」何かを大切に育てながら進路を切り開いて行ってください。

この「先輩方の言葉」は、新宿高等学校同窓会である「朝陽会」の方々のご協力で、毎号卒業生からご寄稿をいただいています。社会で活躍される皆さんの先輩方の貴重なメッセージです。

進路を考えるときに、ぜひ参考にしてください！